



[下]東都本町式丁目ノ景 歌川国輝画
江戸の名所を透視図法を用いて空間の奥行きを強調して描いている。



違いはどこだ？



[下]江戸一目図屏風 鋏形蕙斎画 江戸の街のパノラマ図。現代のスカイツリーから見た眺望と似ていることが話題に。



科学的理論に裏打ちされた西洋画法との
 出会いは、江戸時代後期の絵画世界に静
 かな革新をもたらしました。



泰山鏡
覗き眼鏡器具。反射レンズを通して見ることで絵の遠近感が強調される。

s c i e n c e × a r t

本特別展では、江戸時代後期から現代までに作られた
鳥瞰図・パノラマ風景画の作品を紹介しながら
地図とアートの境界を揺れ動いた
風景画の“もうひとつの歴史”を
追いかけていきます。



〔上〕筑波山神社を中心とせる名所図絵
吉田初三郎画 筑波山を中心に、東は北海道、西は九州門司までを描いた超パノラマ図。

[下]佐原町鳥瞰
松井天山画 佐原の街を描いたパノラマ図。微細に描かれた建物には商店名・屋号・名前などひとつずつ書き込んでいる。



[右]伊豆国附八丈島并属小島沿海地図
伊能忠敬作 伊豆諸島の測量によって作成された伊能図。島を真上から見たように描く。



[左上]
 自肥後国播磨郡播磨七地村
 至日向国宮崎郡宮崎南方村図
 伊能忠敬作 内陸部の街道を描いた伊能図。
 山の地形を斜傾畝で描く伊能図に典型的な地形描写。



[左下]
自肥後国天草郡中田村
至肥後国天草郡魚貫村麓絵図
伊能忠敬作
九州天草諸島の測量時に描かれた風景スケッチ。

